



資料2

令和5年度災害医療対策会議 報告事項 ア（ア）
令和5年度関東ブロックDMAT訓練について

神奈川県 健康医療局 医療危機対策本部室 災害医療グループ

令和6年3月19日

1. 訓練概要

(1) 目的

大正型関東地震（首都直下型Mw8.2 最大震度7）の発生し、県内の西部から東部を中心に県内全域を被災、その後に富士山の噴火で広範囲の降灰が予測される事態を想定して、関東ブロック各都県DMATや関係機関との密接な連携により、被災地における情報集約、緊急治療、病院支援（籠城・避難等）、医療搬送等を地域の実情をふまえて迅速に行い検証する

(2) 訓練実施日

令和5年11月25日(土)、26日(日)

(3) 訓練想定

- 2023年11月24日21：00発災（相模トラフ 首都直下型 Mw8.2 最大震度7）
- 県内ほぼ全域で震度6強、一部震度7となる強い揺れ 地震による津波被害
- 被災地外（県外）への傷病者搬送
- 富士山が噴火警戒レベル4の発表後に噴火が起こり、県内全域で被害が想定される

1. 訓練概要

(4) 災害拠点病院・DMAT以外の参加・協力機関

DPAT、小児周産期リエゾン

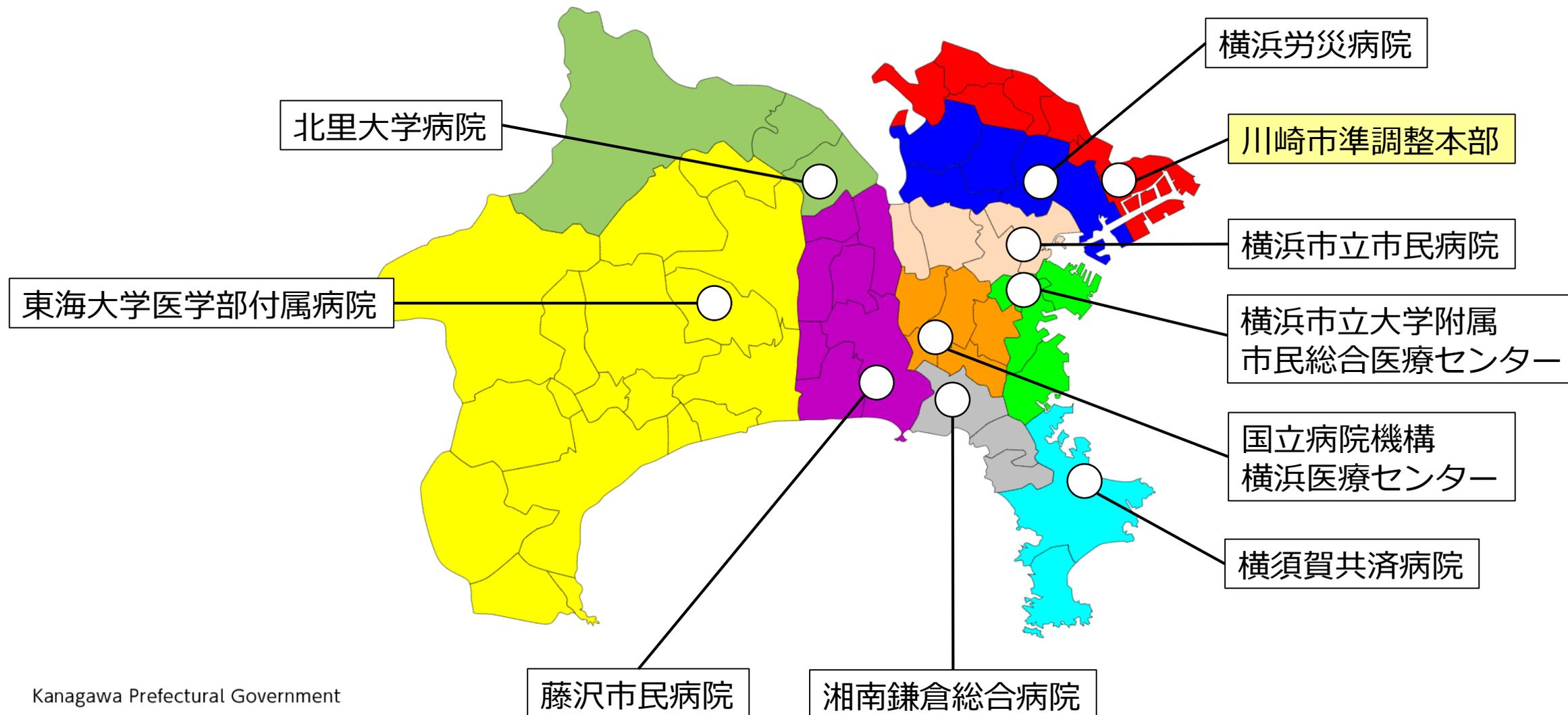
県医師会、横浜市消防局、NEXCO中日本、海上保安庁、横浜地方気象台、日本赤十字社等

(5) 訓練項目

都道府県調整本部	活動拠点本部(災害拠点病院等)	各医療機関
<ul style="list-style-type: none">・本部運営・指揮系統の確立・活動方針の決定・他機関の連携・情報収集・ロジスティクス・DMAT以外の支援チームとの調整・県外の患者受け入れに係る搬送調整・航空機を使用した搬送の調整	<ul style="list-style-type: none">・活動拠点本部の設置・DMAT以外の支援チームとの協働・地域の医療機関における被災状況の把握・EMISの入力、及び他施設の代行入力・衛星電話、MCA無線を使用した通信の確立・医療機関の支援・域内の搬送	<ul style="list-style-type: none">・支援DMATとの協働・診療継続の判断・EMISの入力 (・多数患者の受け入れ訓練)

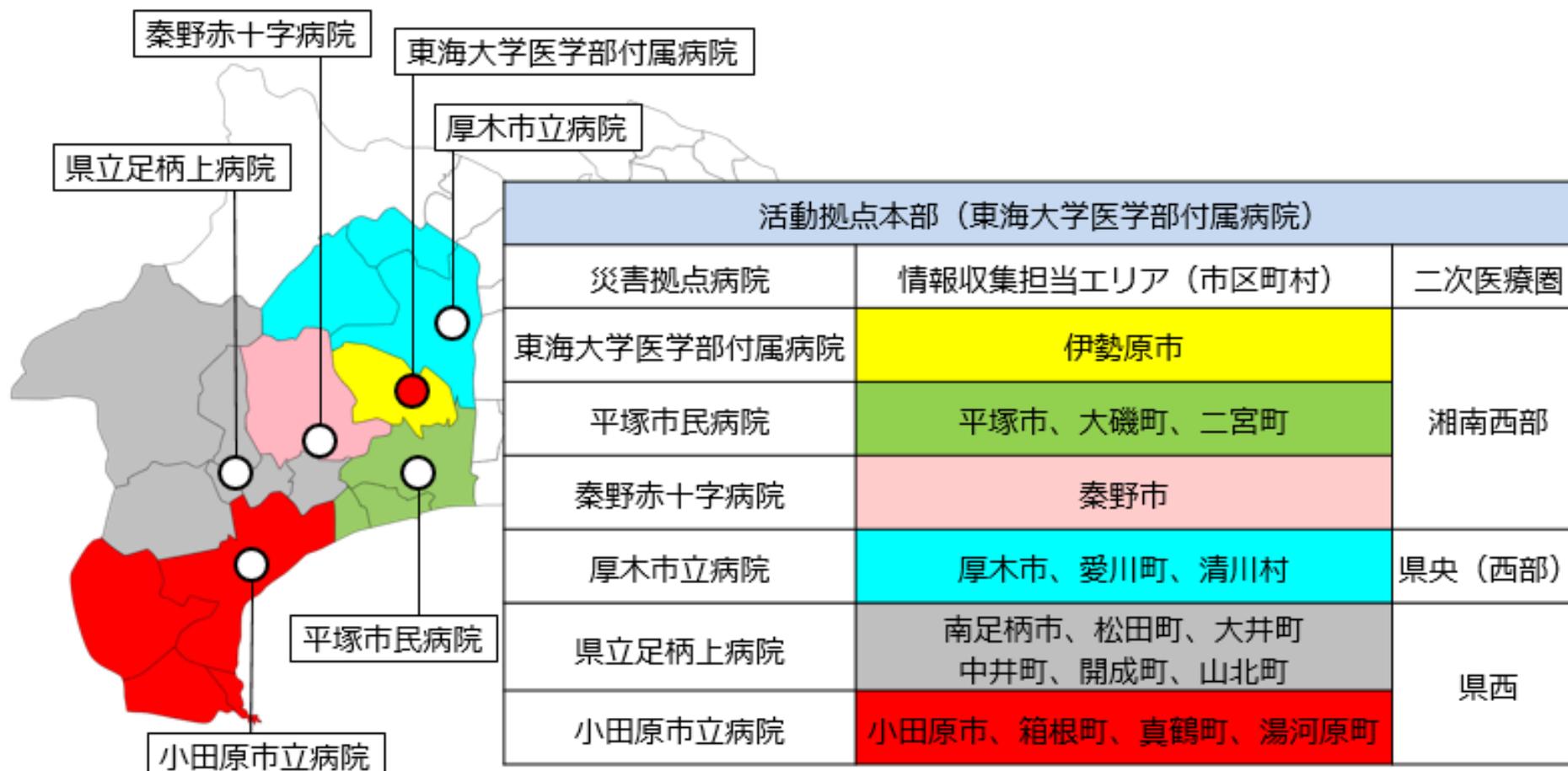
1. 訓練概要

(6) 区域と活動拠点本部管轄エリア



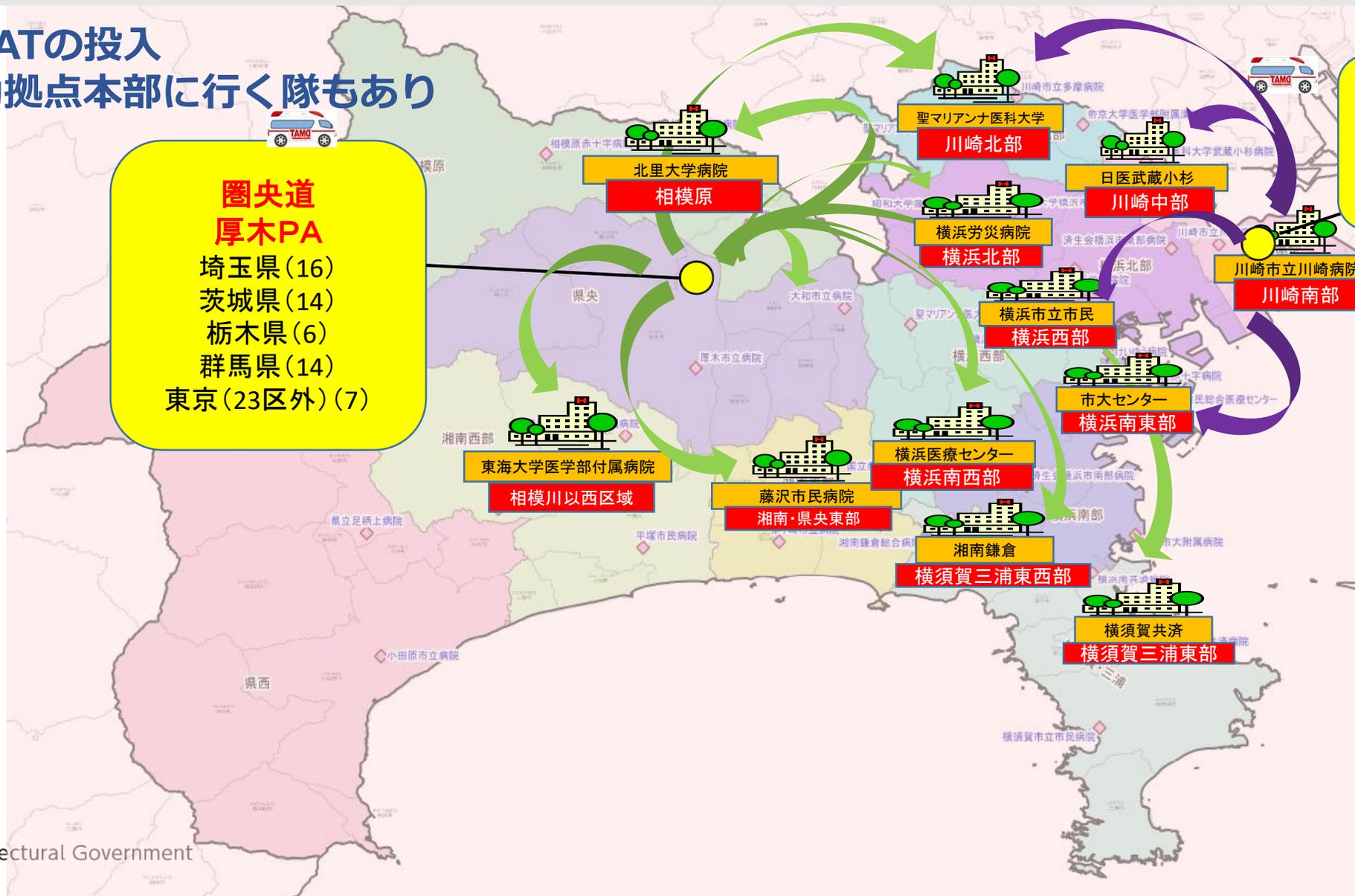
1. 訓練概要

(7) 活動拠点本部管轄内の担当エリアの分担 例) 相模原以西区域活動拠点本部の担当エリア



1. 訓練概要

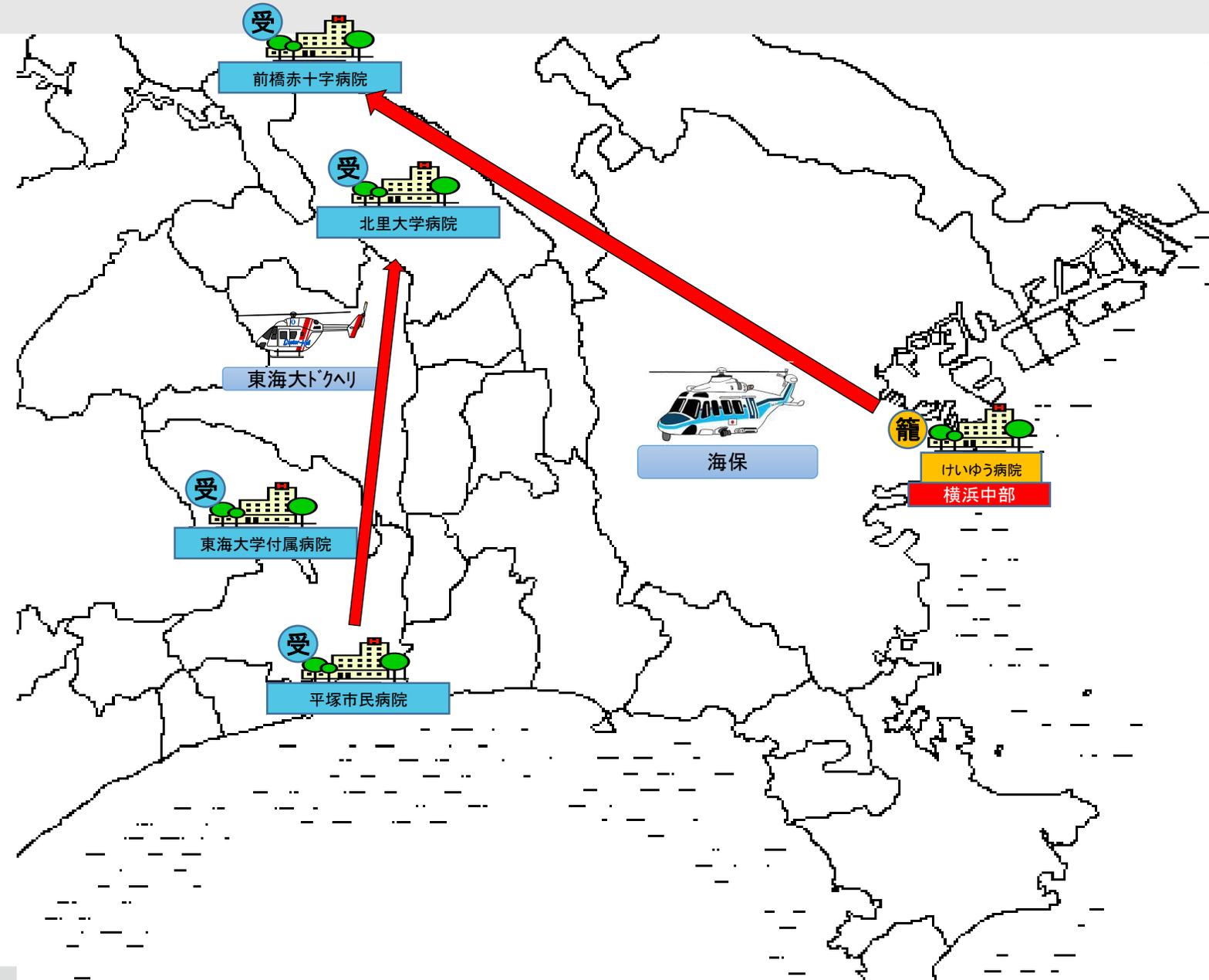
(8) DMATの投入 ※直接活動拠点本部に行く隊もあり



川崎市立川崎病院
千葉 (15)
東京 (23区) (19)

1. 訓練概要

(9) 空路搬送の実機訓練



3. 訓練後の振り返り調査

○参加医療機関

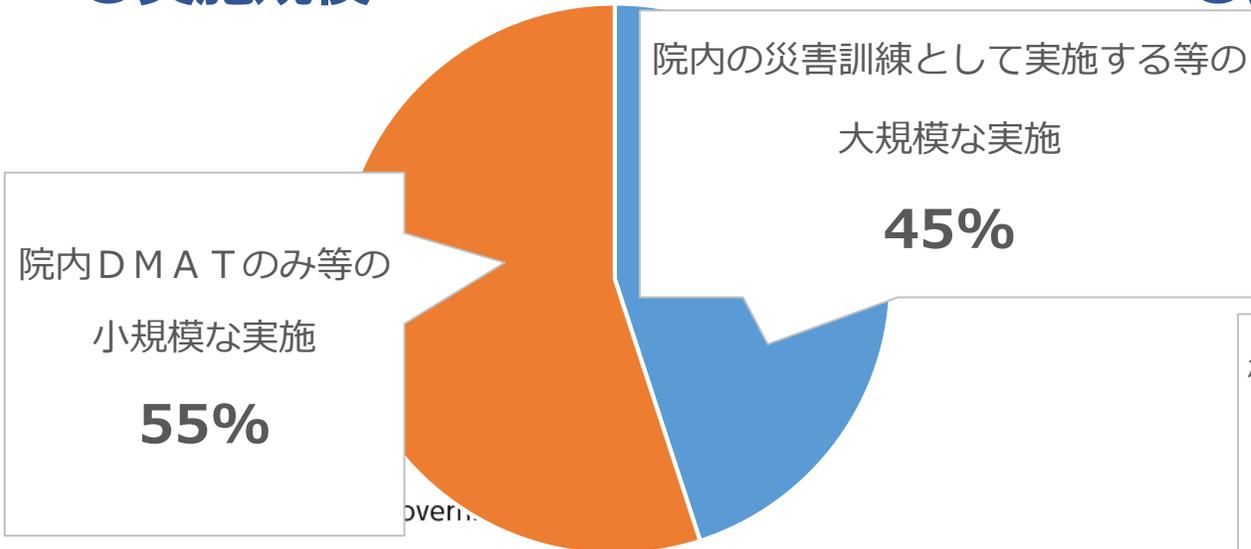
災害拠点病院	35
災害拠点精神科病院	1
災害協力病院	1
その他医療機関	3

○参加人数

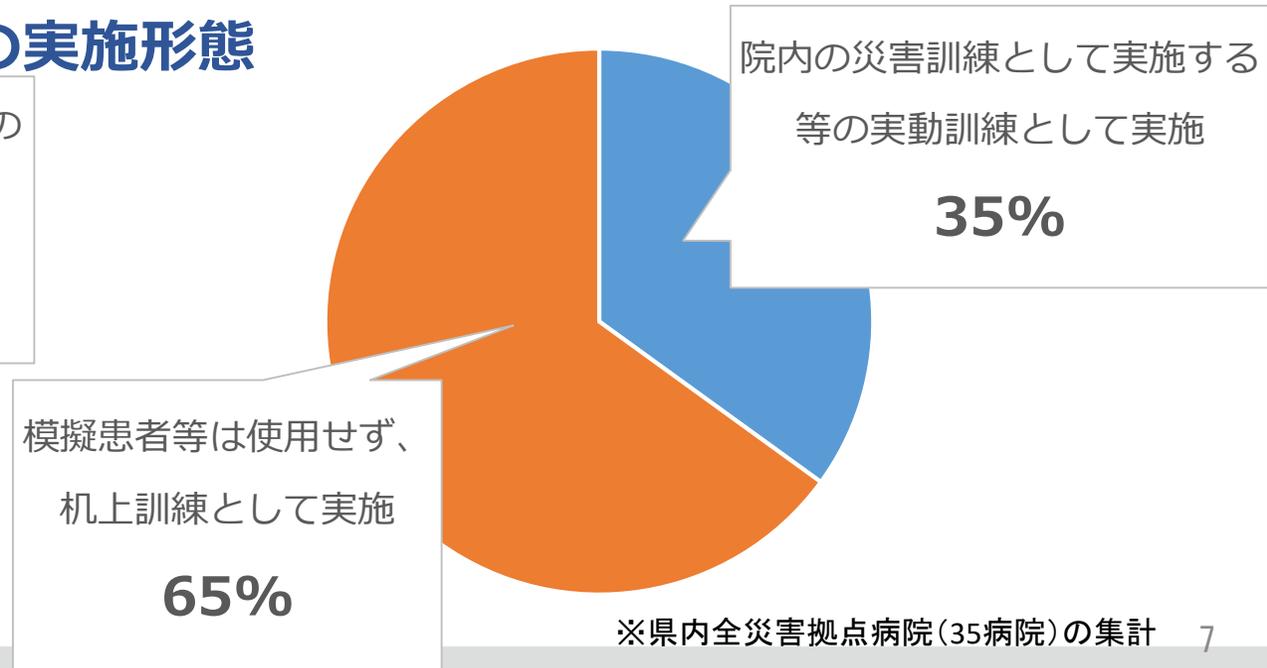
県内医療機関参加者人数	1675人
県外DMATプレーヤー人数	441人
DMATコントローラー等の人数	57人
計	2173人

※アンケート調査は全機関から回答

○実施規模



○実施形態



※県内全災害拠点病院(35病院)の集計

3. 訓練後の振り返り調査

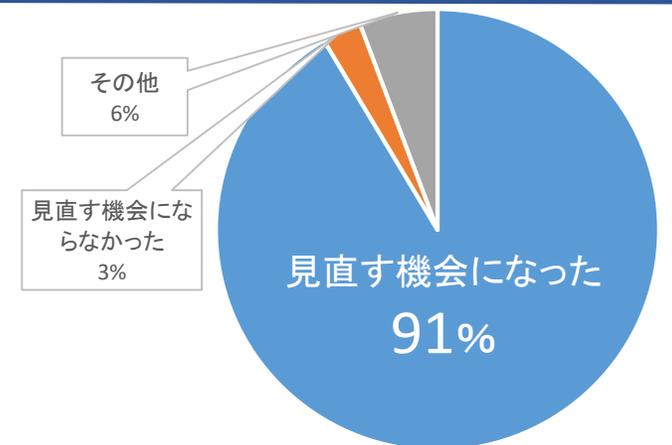
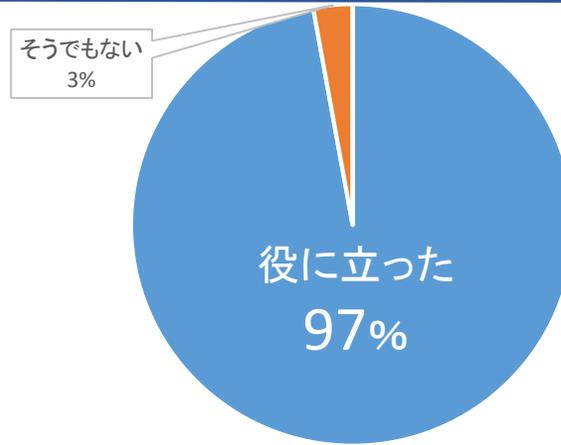
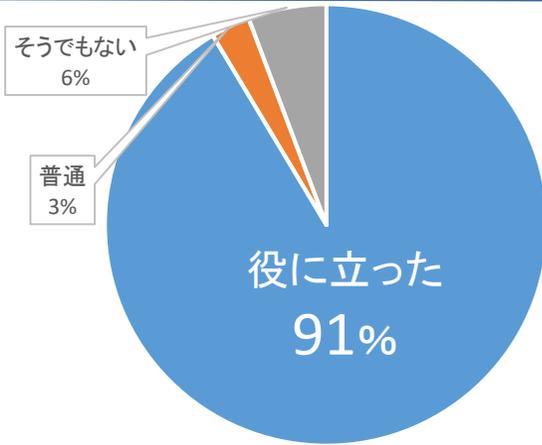
○訓練について

災害拠点病院として

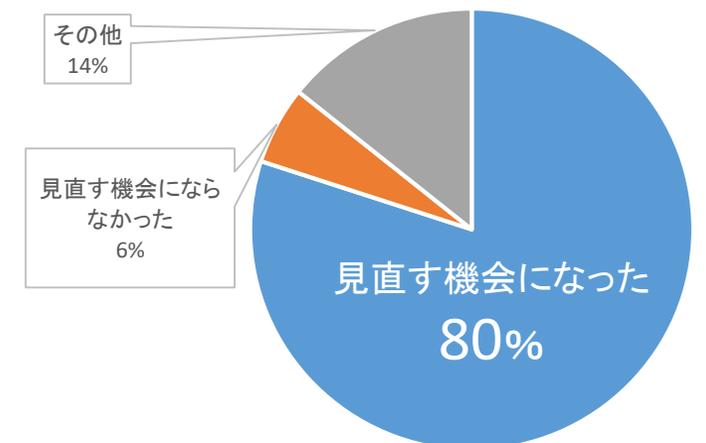
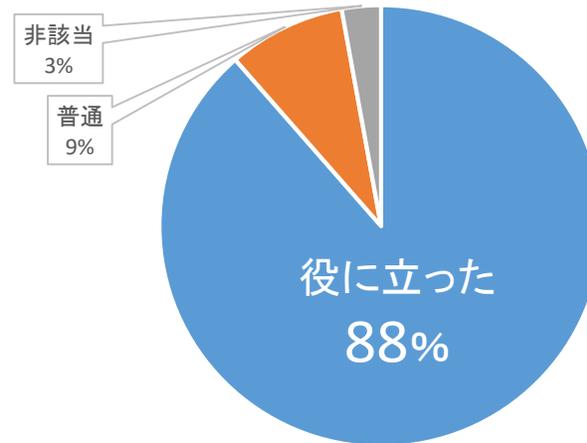
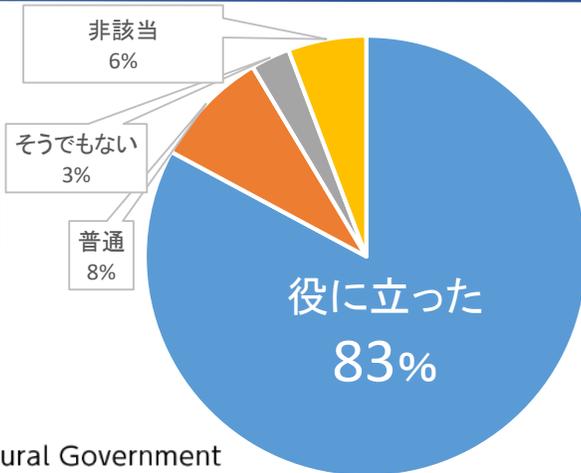
DMATとして

BCPの見直し

地震



降灰



3. 訓練後の振り返り調査

○訓練についての意見

- 災害拠点病院としての役割の再確認した
- 受援としての課題抽出できた
- DMATの受け入れについても、事前に計画する必要性がある
- BCPの実効性の検証や見直しをする機会になった
- 長期籠城について、検討する機会になった
- 富士山噴火に関する知識の習得や対策の検討する機会となった

○課題について

- EMISの基礎情報の入力を平時から徹底させておく必要がある
- 実働のロジ訓練を行った方がよい
- 事前の準備段階から、もっとDMATのインストやタスクを参加させた方がよいのではないか
- 医療圏内におけるエリア分けや地域特性による対応の検討
- 長期籠城時の対応について、他施設の意見も共有してほしい

説明は以上です。

・医療危機対策本部室 災害医療グループ 村田